

東京双松会会報

発行 東京都新宿区西新宿7-16-6 森正ビル 株式会社かもす内 東京双松会事務局
TEL:03-3361-4094 FAX:03-3361-6303 URL:http://www.tokyo-soshokai.org/
印刷 株式会社かもす

『郷土とのつながりがもう一つ。。。』

会長 芦田 昭充(第13期 昭和37年卒)

前会長の石倉義朗さんより、内々に会長就任の意向について打診があり、社長から会長に引くこのタイミングでお受けしなければならないと考えておりました。

そして、今年6月の役員会において次期会長にご推挙頂くことになりました。石倉さんほど精力的にこのお役目を勤めることができるか一抹の不安はありますが、皆様のご期待に沿えるよう、一生懸命取り組ませて頂く所存です。

私が昭和34年に入学したときは、まだ松江高校でしたが、3年生のとき南高校が新設されたことにより「松江北高校」と名前が変わり、私は「北校第一期生」となりました。中学(大東中学校)では野球部に所属しておりましたが、偶々、3年生のときに陸上大会にかり出され、全日本放送陸上大会で全国2位となったことから、松江高校から勧誘を受けることとなりました。

中学時代の野球部では、2年生のときに県大会で準優勝(優勝は松江四中)、次こそ優勝を目指せと猛練習に励んだ結果、練習のしすぎで肩をこわしてしまい、残念ながら大原郡の予選大会で予選落ちとなってしまいました。投手の命である肩を痛めてしまったことで、思いもかけず野球から陸上へ転向することになりますが、これが、その後陸上漬けとなる高校・大学生活7年間の始まりと言えるでしょう。私が松江高校に入学したときの陸上部キャプテンは深田さん、2年生のときのキャプテンは宮田さん、ご両名共に全国級の名選手でしたが、更に先輩を辿っていきますと、原陽堅さん、山田寧さん、という松江高校陸上部を代表する全国クラスの諸先輩もいらっしゃいました。さて、現在の私にとっての鳥根とのつながりはいくつかありますが、鳥根県出身の経営者6人の会である「大社会」、これは

出雲大社から命名したのですが、3ヶ月に1回の頻度で集まっております。また、昨年からはその出雲大社よりご依頼を受け「出雲大社御遷宮奉賛会」の副会長職もお引き受けしました。社内では「鳥根県人会」と称し、役職や世



代の違う老若男女が集まり、酒を飲んで故郷談義に興じております。但し「たとえ同郷であってもえこひいきはしない」というのが県人会の大前提となっているのは申し上げるまでもありません。高校時代の同窓会としては、北校一期生の在東京OB会「東京北一会」もあり、今後は、これらに加え、本東京双松会が私と鳥根とのつながりを更に深めてくれるものになると確信しております。

前会長の石倉さんは、東京双松会が「ノスタルジーを共有する懇親会」から「新たな体験のステージ」を目指す方針を掲げておられました。今後、私が新会長としてどこまで貢献できるか自信はありませんが、石倉さんのこの思いを受け継ぎ、微力ながらその実現に向けて努めて参る所存ですので、どうぞ、ご支援の程、宜しくお願い致します。

私は今年10月に、鳥根県及び県内市町村の幹部を対象としたセミナーに講師としてお招きいただき、わが故郷松江を訪れる予定です。40年以上、一企業人として愚直に生きてきた私が、これまでの経験を通し何か皆様にお伝えしていくことで、少しでも鳥根のお役に立つことができれば幸いです。

(株式会社 商船三井 会長)

平成22年度総会報告

平成22年11月7日(日)、東京市ヶ谷の「私学会館(アルカディア市ヶ谷)」にて第55回東京双松会総会・懇親会が開催された。前年の第54回総会を会再生の元年としたいと報告したが、今回から試行的に近畿双松会との相互交流も始まり、今回はさらに一層の拡大が期待された。当日は天候にも恵まれ、110名を超える参加者を得て盛大に行われた。

総会は常松次郎さん(平成5年卒)と高野都美さん(平成8年卒)の平成卒業コンビの司会で始まり、冒頭、泉宏佳事務局長(昭和38年卒)より開会の辞に続き、1年間の活動実績が報告された。

その後、石倉義朗会長(昭和30年卒)の挨拶に引き続き、来賓を代表して勝部昌幸北高校長(昭和45年卒)、庄司肇双松会会長(昭和35年卒)、押田良樹近畿双松会会長(昭和35年卒)のご挨拶をいただいた。最後に、前島紀夫委員(昭和38年卒)からの会計報告、島村武宜委員(昭和38年卒)からの監査報告があり、満場一致で承認され総会を終了した。

総会に続く懇親会では、各テーブルに運ばれる料理に舌鼓を打ちながら旧交を温める輪が広がり大いに盛り上がったところで、部活報告に入った。今回の部活報告は「バスケットボール部」。部のOB会である「芝蘭会(しらんかい)」の来海泰保さん(昭和34年卒)、井上正教さん(昭和34年卒)、角田洋治さん(昭和35年卒)、亀山博信さん(昭和43年卒)から、栄光のバスケット部の戦果・エピソードを伺った。



和やかな会場写真をホームページに掲載していますので是非ご覧ください。
<http://www.tokyo-soshokai.org>

懇親会の最後には、学生会員による校歌「山脈浮かびて」と熟年組による校歌「赤山健児」、そして記念撮影を行い、原靖雄副会長(昭和33年卒)の挨拶で3時間を超える和やかな総会はお開きとなった。

— 石倉会長 挨拶 —



本日55回という節目の東京双松会を会場いっぱい埋めてくださった皆様とともに開催できることはこの上ない喜びです。ありがとうございました。

さて皆様ご存知の通り

東京双松会は一昨年より大胆な組織改革を行ってまいりました。それは歴史の原点にたつて松中、松高、北高の血脈を太くし活性化することを目的としたものでした。そしてそのためには組織の軸を若い北高世代にバトンタッチすること。事務局を個人宅から会員の連絡がとりやすいように都心の会社事務所の一角に置かせていただくこと。さらには会員の声が発言に組織に反映され、交流できるようホームページの開設と会報を発行することなどでした。

おかげさまでこうしたことを役員の方々께서すぐさま献身的に実行していただいた結果 会員の皆様の大きな反響を得て 今日東京双松会は「ダイナミックに生まれ変わったと実感しております。

つぎに私は これからの東京双松会が考えるべきことは「母校の生徒に対して果たすべきことは何か」という課題をミッションとしてとりあげることだと思っております。

最後に私ごとではございますが 今まで世代交代を真っ先に唱えていながら未だ会長としてご挨拶を申し上げていることに とても気恥ずかしさを覚えています。どうか来年こそは 会員の総意としてお願いしている北高1期の芦田昭充様に会長をお引き受けいただき名実ともに 伝統を誇る母校にふさわしい東京双松会が誕生しますことを心から念願しています。

寄稿

— 須田 裕子(第33期 昭和57年卒) —

今から20数年前、父が亡くなる少し前のことだったと思う。久しぶりに家族そろって初詣に出かけた帰り、父が「赤山の松を見に行こう」と言い出した。母校に行ったのは、卒業して以来初めてだった。父は今の北高と同じ赤山にあった旧制松江中学を、姉は西川津にあった古い木造校舎の北高を卒業している。校舎は、私の代に赤山に戻った。鉄筋コンクリートで新築された校舎は機械警備の味気ないものだったが、母校が赤山の地に戻ったことは、多くのOB達を喜ばせたにちがいない。

校舎が変わり時代が変わっても、変わらず立っていたのがあの2本の松だった。在籍していたころは全く関心がなかった2本の松を、あの日、父は感慨深げに見ていた。松は寿命が永く千歳をちぎるといわれ、千年の霜雪に耐え、一年中青々と緑を保ち、雄大な枝振りをもって「めでたい木」として日本人は愛でてきた。赤山の双松には、さらに、希望に満ちた多くの若者達の想いが宿っている。あの時、父は終始無言だった。家族を連れだって、さまざまな想いがわき起こっていたのではないだろうか。

今年、東日本大震災で有名・無名関わらず数え切れないほどの木が倒れ、流された。その木々に寄せられた人々の想いは、一瞬のうちに消えてしまった。

あるいは、災を潜り抜けて残った桜、松、いちよう…が、また立ち上がろうとする被災した人々の希望となった。そんな光景を見て、「赤山の松を見に行こう」と思った。そして先日、20数年ぶりに母校に行つてあの場所に向かった。すると、松が小さくなっていた。父と見たあの松は、もうそこには無かった。永い間、多くの若者を見守り、数え切れないほどの思い出を抱えたあの松は、何度か植え替えられて代替わりしていたのだ。もちろん淋しくはあった。でも、不思議と清々しかったのは、枯れたり倒れたりしても、そこに双松を立ち続けさせようとする人の想いがあったことだった。木は変わっても、あそこに2本の松を無くすわけにはいかない、という強い想い——。

時々思い出してください。
時間があれば尋ねてみてください。あそこに行くと、誰かに会えるかもしれない。



すだひろこプロフィール:

共立女子大学卒業。

TV番組のプロデューサーとして株式会社アミューズに勤務。

— 近畿双松会総会報告 —

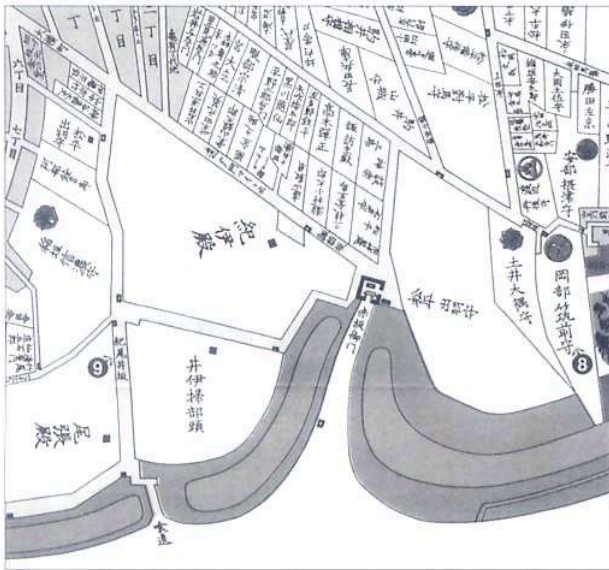
今年度から東京と近畿の双松会が相互に交流し情報交換しようということになり、平成22年11月7日の東京双松会総会には大阪から押田会長と松本事務局長をお迎えしたが、次いで28日には近畿双松会が中ノ島にある大阪中央公会堂で開催され、石倉会長と事務局長が参加した。会場は国の重要文化財に指定されている名建築で、今年は抽選に上手く当たった由。高い天井とアーチを掛けた列柱に囲まれた会場は厳粛な中にも華やいだ雰囲気にも包まれており、135名の参加を得て盛大に行われた。パワーポイントを使って手際よく活動報告が進められる等、3時間半の和やかな総会であった。

今後3年毎位に相互交流したと考えている。

(事務局長 泉 宏佳)



ふるさと巡りIN東京



松江藩江戸上屋敷

上屋敷は、藩主とその家族が住む江戸における本宅です。江戸切絵図を見ると、松江藩の上屋敷は赤坂御門(赤坂見附)を入れてすぐの右側にあります。松平出羽守という広大なお屋敷(約1万坪)がそれで、近くには紀伊、尾張、井伊など、徳川御三家や有力な親藩・譜代大名の屋敷が並んでいる所ですから、

初代直政が家康の孫という松江藩の格の高さが伺えます。因みに、今の紀尾井町はこの紀伊、尾張、井伊の頭文字をとって名付けられたものです。

現在の地図と照合して見ると、上屋敷跡は衆議院・参議院の議長公邸になっています。

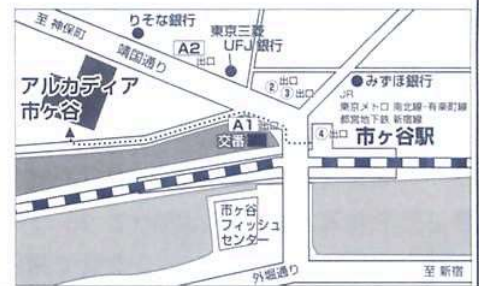
地下鉄赤坂見附駅を降りて三宅坂に向かって国道246号の坂を上る途中にあり、向かい側には赤坂御門の石垣が一部残されています。高い木々に囲まれた閑静な公邸は、うっかりすると見過ごしてしまいがちですが、昔の上屋敷跡が分割されずにそのまま残っている珍しい所で、東京で松江を偲ぶ数少ない場所の一つです。

近くには山王日枝神社や国会議事堂、最高裁判所などがありますので、都内散策の折りに立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



＝平成23年度 総会開催のご案内＝

1. 日時／平成23年10月1日(土) 12:00～15:30
2. 会場／アルカディア市ヶ谷(私学会館)
東京都千代田区九段北4-2-25
TEL.03-3261-9921(代表)
3. 会費／8,000円(学生無料)
4. 申込〆切／平成23年9月9日(金)



編集後記

我が母校は旧制松江中学から数えて今年で創立135周年を迎えました。第1期生の卒業は何と明治12年です。私たちは今、新制松江高校になってからの期数で〇〇期卒としていますが、こんなにも永い歴史を持つ学校の卒業生であることに大なる誇りを感じます。

11月19日(土)には、松江のホテル一畑で創立135周年双松会記念総会が開催され、記念講演や合唱部、弦楽同好会による演奏会も計画されています。万障繰り合わせて是非ご参加下さい。

会報第2号をお届けします。今後更に内容を充実させていきますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。(T.M)